

全国校園長会との連絡会

日時 六月二十九日(火)
四時三十分～

六時三十分

会場 ゆうぽうと 会議室

出席者

◎全国国公立幼稚園長会

会長 池田多津美

◎全国連合小学校長会

事務局長 小滝 岩夫

◎全日本中学校長会

会長 新藤 久典

◎全国高等学校長協会

事務局長 小栗 洋

◎全国特別支援学校長会

会長 尾崎 祐三

◎全連退 会長・各部部长・

委員長・事務局長

○廣瀬会長の挨拶 私たちは現職の先生方との連携・協力を密にして行くことを願って連絡会を行ってきました。私たちとしては、八月初旬に文

部科学省をはじめ他の関係省庁へ意見具申しますが、その中に現職の先生方のご要望も反映させたいと考え、この時期に開催いたしました。よろしくお願いいたします。

○入子総務部長 全連退の各部・委員会活動の概要についての説明「略」

学校評価ガイドラインについて、全連退としては現職の先生方を支援する立場で意見をまとめて、提出しました。

◎池田(国公幼会長) 今、国公幼の当面する課題として大きな柱を三つ上げてみました。一番目は、本会の組織・運営が見直しの時期に来ていることです。ここ数年少子化が激しく進行しております。そこで、組織運営に関する検討委員会を昨年立ち上げました。

二番目は、幼稚園と保育所の制度の見直しについてです。現在「子ども子育て新システ

ム検討委員会」では、幼稚園も保育所もなくして、子ども園(仮称)という形で一本化する、幼稚園教育要領と保育所保育指針も一本化して子ども指針に変える、といった議論がされています。

三番目は、幼児教育の質の向上ということで、国公立幼稚園の置かれている現状を把握した上で動いていきたいと思えます。幼稚園での子育て支援、預かり保育、延長保育等に努力していきたい。

◎小滝(全連小事務局長) 全連小としてとくに重要だと考えている点について申し上げます。まず、学習指導要領の先行実施の二年目ということ

で、本格実施に向けて移行期間内に遺漏なく取り組みます。それから、日本の義務教育の今までの伝統的な良さ、変わらない部分を大事にしていきたい。次に、障がい者制度改革

が行われた場合の課題や、学習評価及び指導要録の改善の問題があります。また、学校五日制についてもきちんとした検証をすべきだと考えています。

行政機関等への要望について、まずは教職員定数の改善や少人数指導に向けた取り組みは引き続き行っていかねばならない。また、教職員の資質・能力に関しては、総合的な向上の方策を、中教審の特別部会で意見表明を行っていきます。その中で、教員養成や免許更新制度等様々な問題に

対して、要望や要請活動に取り組んでいきます。

◎新藤(全日中会長) 少人数学級と教員定数の改善については、中教審の提言で七月中に明確にまとめられていきます。少人数学級の人数は当面三十五人というのが分科会長の案です。学校の実態に即した学級編成をして、

それに見合うだけの教員が配置できるように要望しています。とくに全日中としては、持ち時数の上限を教科・領域・総合等も含めて十九時間にしてほしい。学級数×2を配置してほしいと強く要望しております。

もう一つは、かなり地域格差が起こっている免許外教科の指導です。同じ公立の学校でありながら目に余るものがあります。昨年度の全日中の調査で見ると、全国で七、一〇〇人以上の教員が専門の教科と合せて別の教科を持たされています。これは何としても完全に廃止してほしいと求めています。そのためには義務教育費国庫負担制度を抜本的に見直して、ぜひ全額国庫負担にしてほしいと強く求めています。

まして、現在は九、七〇〇校で、年々減っております。その関係で、会費の収入も心細い状態で、なにか恒久財源を確保しないと活動が先細りになる危険性があります。

◎小栗(全高長事務局長)

高等学校の生徒の学力、特に学習意欲の低下が顕著になっていきます。二極化傾向です。トップ層の生徒たちは今まで以上に勉強しているのですが、まったくしない生徒もかなりいます。その原因は、社会ムードが色濃く反映していると思います。家庭とか地域の教育力の崩壊です。生徒の中には携帯電話依存症になっていて、チェーンメールとか、永遠にメールを打ち続けるという状況も起こっています。結果的に勉強への集中力が弱くなっています。学校としてはそういう状況の生徒をどう指導するか頭を痛めております。

高校にも観点別評価が具体的に入ってくる状況にあります。小中と違い、高校はクラスラスの生徒が全国ほぼ四十人です。そして、規模が大きいのです。観点別評価がそのまま高校に入ってきて、やり通せるか心配な部分があります。

高大接続ということがこれから問題になってくるでしょう。文科省高等教育局管理下に高大接続の委員会が作られています。これは、高校生の学力の判定を新しいテストでやるということです。達成度テストだというのですが、これを大学入試に使うという部分がある。まだ何のことやら分からないところがあります。

◎尾崎(全特長会長)

学習指導要領、学校教育法が変わりまして、特殊教育から特別支援教育に変わったのですが、それは対象が小学校、中学校、高校にいる発達障がいの子を

含めて支援教育の対象にするという大きな転換があったのです。だから、特別支援教育は特別支援学校だけがやる教育ではなく、幼小中高、全種類がやる教育です。それに対する支援を特別支援学校がしなさいという機能が法律によって定められています。

それから、新学習指導要領が告示されたのですが、特別支援教育に関して小学校も中学校も高校も幼稚園教育においても特別支援があるということが、指導要領に全て記述されており、今回、内閣府に障がい者制度改革推進本部が設置されたのですが、障がい者の権利条約をまだ日本は批准していないのです。その批准と関わってのことで始まった会議なのです。単に教育だけでなく、福祉とか交通なのですが、今度それに基づい

て推進会議ができたのです。しかし、教育に関する審議に不可欠な教育関係者が一人もいない。そして、どの子ども、どんな障がいがあっても、通常学級へ入らなければいけないという。それがこれからの社会の方向なのだという考え方があつて、もしそうなった場合、特別支援学校の存在意義がなくなります。非常に危惧されることです。子どもによつては集団の中に入ることが苦手な子がいますし、教え方も全然違います、そういう差異をどう埋めていくのかという議論は一切なしで案が出されてきていることは問題です。

○司会(戸張総務) ご質問、ご意見がありましたらどうぞ。

○廣瀬会長 幼稚園も保育所も国公立と私立とがある。私立の方々がどういう考え方を持っているのか。幼保一元化の問題など公立だけやっ

るが、限界があるのではないか。

○池田(国公幼会長) 私立の幼稚園の団体もその長の方々の一番大事なことは子ども

の最善の利益であつて、そのため

に良い教育を推進するということ

で、私たちと同じ考えです。

○岡野(生涯学習委員長) 幼稚園教諭の免許と保育士の資格を一本化するということ

が記事で出ていたが、園長の反応はいかがでしょうか。

○池田 今回の大会でも文科省の幼児教育課長から、その動きについて講話という形で

ありました。ただ、実際に園長たちの意見をとりまとめるところ

まではいっていません。

○田中(教育課題委員長) 学校の実態に応じて教員が

から、学級数×2という具体的な提案があつたが、とても良いと思う。

○池田 国の予算で、未来を作っていく子どもたちのために教育にはしっかりとした財源確保をしてほしいということ

とを、全連退の先生方から声に出していただけたらと思います。

○司会 全連退としても、八月初旬に省庁へ要望書を提出

します。その中にも教育への投資ということを第一番目に

上げてまいります。

また、中教審の審議が進んでいくにしたがつて、一部の

人が相当強い発言を毎回繰り返すと答申に影響を及ぼすこと

が懸念されます。その会に出ている全日中や全連小の会

長からそれに対してピシッと

言っています。

○入子 今日、五校種の代表の方々からいろいろのご意見をいただき、大変参考になりました。それらを受けながら、また中教審を始めとする情報を今後ともご提供いただく中で全連退としての意見集約をして、支援体制をしっかり作っていききたいと思っております。

ありがとうございます。



全国校園長会の代表の方々